

## リズィ・リンズィ

- 1 これから話すのはハイランドの若者のこと  
彼には立派なお屋敷があった  
若者は母にこう言った  
「母さん お願いがあるんだ  
エディンバラの町へ  
花嫁を探しに行かせてほしい」
- 2 「行つてらっしゃい  
花嫁を連れていらっしゃい  
でも お世辞で求婚してはだめ  
貧しい暮しぶりをちゃんと伝えなさい」
- 3 「僕のコートはラシャのプレード  
タータンチェックのキルトは膝までもない  
この靴下に 粗革ブローグに 縁なし帽  
お世辞なんか言えないよ」
- 4 エディンバラにやっできて  
踊りの場に加わりながら  
たくさんの若い娘の中でも  
リズィ・リンズィが一番のお気に入り
- 5 若者はグレーのプレードを身にまとい  
眉の上まで帽子をかぶり  
リズィ・リンズィを訪ねていった  
「僕の恋人になつてくれ」
- 6 「そして一緒に  
ハイランドへ来てほしい  
なあリズィ ハイランドでは  
チーズとヨーグルトを食べさせてあげる」
- 7 「ベッドは緑のシダでこしらえて  
僕のプレードが二人の掛け布団  
僕の腕の中で寝るといい リズィ  
僕と一緒にハイランドへ行こう」
- 8 「どうやってハイランドに行くというの  
どうやって一緒に行くというの  
それがどこなのかも 相手が誰かも  
わからないというのに」

9 「僕の父さんは年老いた羊飼いの母さんは年老いた酪農婦僕の名前はドナルド・マクドナルド  
正真正銘 本名さ」

10 「ドナルド 五ギニーあげるわ  
部屋で一時間待ってちょうだい  
あなたのその血色の良い顔を描くから  
その間にどうするか心を決めるわ」

11 「五ギニーなんていらぬよ  
僕にとっては君が宝石  
ハイランドにはたくさんの牛がいる  
チーズとヨーグルトを食べさせてあげる

12 「君には青いプレードをあげよう  
赤と緑のストライプ模様がいい  
僕は君の王子様になって  
最高の絵の構図じゃないか

13 「僕は一国一城の主  
国の王様にも負けるものか  
僕の真心はすべて君のもの  
他の誰にもその分け前なんてやらないよ

14 「さあ ハイランドへ行こう  
僕と一緒に幸せになろう  
なあリズィ ハイランドへ行こう  
そして一緒に小羊の世話をしよう」

15 「どうやって見知らぬ人と行けるといふの  
家を出て 丘や谷を越えて行けると」  
「言っただろ 僕はドナルド・マクドナルド  
自分の名前を誇りに思うよ」

16 リズィの父親がやって来た  
高貴な身分の騎士の方  
「お前がわしの娘を盗もうものなら  
即刻 縛り首にしてやるぞ」

17 若者は くるっと踵を返し

軽く笑いながらこう言った  
「エディンバラにそんな法なんかあるもんか  
即刻 僕を縛り首なんて」

18 リズイの侍女は愛らしい生娘

口をはさんで こう言った  
「私がポーチに一マークでも持ってたら  
私がドナルドと一緒に行くのに」

19 「ああ ヘレン あなたは宝石箱や

きれいなシルクのスカートを投げ出して  
裸足の貧しい男と一緒に行って  
両親もみんなも捨てられるというの」

20 「だって あの男は魔法使いかもしれない

もしかしたらすごい身分かも  
私ならあのドナルドと一緒に行くわ  
どんな運命が待っているようにも」

21 リズイはシルクの外套を脱ぎ

侍女のガウンを身に着けて  
遙かかなたハイランドへと  
この若き羊飼いとともに旅立った

22 谷を越え 山を越え

ついにリズイの靴はぼろぼろに  
「ああ なんてこと  
あの時あなたに会ったのが間違いだわ  
エディンバラの町に帰りたい  
こんな思いをするなんて」

23 「リズイ そんなこと言わないで

あそここの小屋が僕のうちだ  
ほら 僕の誠実で年とった母さんが  
君に会いにこっちに向かっているよ」

24 「お帰りなさい サー・ドナルド

よく帰ってきたわね」  
「サー・ドナルドなんて呼ばないで  
息子ドナルドと呼んでくれよ」  
この会話はみんなエルス語だったので

リズイにとってはちんぷんかんぷん

25 その日は霧雨で湿っぽくて

二人は陽が昇るまで床の中  
「起きて 起きて かわいいリズイ  
牛の乳絞りを手伝っておくれ」

26 リズイはゆっくり起き上がり

しよっぱい涙を目に浮かべた  
「ああ エディンバラに戻りたい  
ハイランドなんか絶対いやよ」

27 若者は娘を山の高みに連れて行き

遠くまで続く広大な景色を見せて  
「僕はこの島々 そして山々の主なんだ  
君は今やその地主の美しい花嫁だ」

28 「だからハイランドへ来たことを嘆かないで

僕と来たことを悲しまないで  
今や君は偉大なマクドナルド家の立派な夫人  
生涯 マクドナルド家の奥方様だ」